

安徳台遺跡群 2号棺・5号棺 及び出土遺物一括

【平成25年7月18日 市指定 有形文化財】

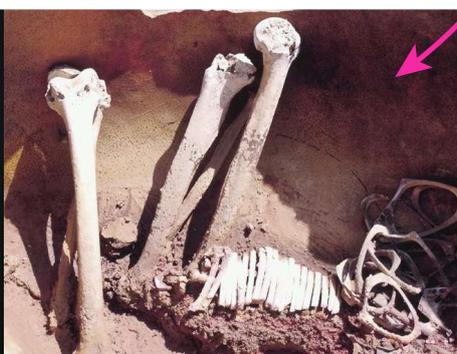
那珂川市の弥生時代を知る上で極めて重要な出土品があり、安徳台遺跡群の歴史的な位置づけを決定づけた首長墓として、二つの甕棺とその副葬品が指定されています。甕棺墓は弥生時代のお墓で、大きな土器の甕を二つ合わせ、その中に人を埋葬します。2号・5号甕棺の中からは人骨と一緒に勾玉、貝輪、塞杆状製品など、棺の外からは鉄剣、鉄戈などの貴重な遺物が数多く見つかりました。



▲埋まっていたときの様子



◀棺の一部を取り除いて中を調べたときの様子



▲ゴホウラ貝製の貝輪（左）、貝輪発見時の様子（右）

貝輪はゴホウラ貝（沖縄や南西諸島の深海でしか取れない巻貝）で作られていました。また、一つの貝から一つの腕輪しか作れません。2号棺には貝輪が43個も副葬され、一人に対して副葬された数としては全国最多です。当時、入手困難な貝輪を数多く持っていた2号棺の人物は、大きな権力を持っていたと考えられます。



▲塞杆状製品（左）、勾玉（右上）、管玉（右下）
塞杆状製品はガラス製で、調査による発見は全国で2例目です。髪飾りとして使われていたと考えられています。